

被爆78周年原水爆禁止世界大会・広島大会 「中国人強制連行・被爆の歴史を歩く」

川原 洋子

8月5日、原水禁大会主催の「安野発電所への中国人強制連行・被爆の歴史を歩く」フィールドワークを行ないました。安野発電所への中国人強制連行の歴史と歴史問題の和解について広く知ってもらうことのできる貴重な機会です。

20人の募集に対して全国から13人の参加がありました。内訳は、神奈川1人、東京9人、長野2人、福岡1人です。このうち9人が20代と30代の若い世代で、大変うれしいことでした。

朝8時に中型バスで平和公園を出発し午後4時半に帰着く、まる一日のフィールドワークです。猛暑の中で行なうので、フィールドワークとは言っても、外に出る時間が短くなるように、できるだけバスの中や善福寺の冷房の効いた部屋で説明するように工夫しました。

幸い、熱中症になる人もなく、全員無事に定刻に平和公園に帰って来ました。



9時すぎに安野発電所に到着。バスの中で中国人強制連行の歴史的経緯と安野での実態について説明を聞いてもらい、外に出る。強い日差しが肌を刺す。左の水圧鉄管(2本)は戦後、増設されたもの。右側の1本の水圧鉄管の方が中国人と朝鮮人が工事に従事したもの。



和解までの経緯や記念碑についての説明を日陰で聞いてもらい、自由に記念碑を見てもらう。



地上から50m、山道の石段を上がったところに貯水槽がある。当時、中国人たちが疲れ果て空腹をかかえて収容所からトンネルを掘るために登った山道だ。下を見下ろして、坪野収容所跡を確認。中国電力職員から設備について説明を受ける。



善福寺のかつて幼稚園だった部屋は冷房が効いていてほっと一息つく。ここで昼食も取る。藤井慧心住職から死亡した中国人5人の遺骨を預かり弔ったこと、遺骨は現在、天津市の勞工紀念館に安置されていることなどの説明を聞く。



津浪の収容所跡と工事現場跡を訪ねた後、香草収容所跡に立つ。大元神社の手前、杉林の中に香草収容所はあった。16歳で強制連行され、強制労働中の事故で失明した宋継堯さんのことを聞いてもらう。



最後は土居取水口。7.7kmの導水トンネルの出発点である水の取り入れ口である。当時と同じ場所に新しく造られた水門、当時つくられたものが現在も使われている取水堰を見学。

参加者の感想—アンケートより

《東京都 50代》

新しく作られた冊子、安野の中国人強制労働等の実態が分かりやすくまとめられていて、説明とあわせて理解が深まりました。皆さんの活動のおかげで知らなかったことを知ることができました。

次世代に伝えていくために若い方たちへの声かけが必要ですね。いつの時代も弱者と強者、上下の関係、差別など変わらずに起きています。理不尽なことに「No.」と言えるパワーを今日もらえた気がします。ありがとうございました。

《東京都 20代》

広島での平和運動といえば原爆のイメージしかなかったが、今回のフィールドワークを通じて新たな一面を知ることができた。日本が加害者側である問題はなかなか学ぶ機会がないので、知識が深まったと思う。東京へ戻ってから、今日学んだことを広めていきたいと思います。

《長野県 30代》

安野発電所の見学や強制労働で亡くなった方の弔いをされた善福寺の見学をすることができて良かったです。暑い中でしたので説明をバス内で行ったり、冷房のある場所で行ったりしていただき、ありがたかったです。

《福岡県 30代》

このフィールドワークでしか知ることのできない事実を知ることができた。日本人が加害の立場で広島を語られることは少ないが、強制連行があったことは貴重な歴史だと思う。

《東京都 40代》

「被害の救済への努力」（和解）は歴史的にも意味のあることと思いました。＜歴史事実の継承＞これに尽きると思いました。今日学んだことは職場の同僚に写真とともに伝えます。

《神奈川県 70代》

戦時中の中国人・朝鮮人強制労働の跡は全国各地にあるのだと再確認しました。安野の場合は名簿がしっかり保存され地元の有志による歴史保存活動が行われました。その活動に敬意を表します。

中国での追悼活動も行われ、日中不再戦の友好関係を持つことができたことも素晴らしい。21世紀に入り、中国を支那と呼ぶ石原都知事、中国敵視政策を展開する安倍首相の登場によって反中国キャンペーンに乗るマスコミの論調、そして米国の傀儡ともいべき岸田首相の台湾有事の喧騒によって平和国家日本の危機的状況の中で、日本と中国、韓国・朝鮮の人と人の友好関係=民間外交が重要だと思います。